

2013年 新年賀詞交歓会 木村会長挨拶(要旨)

記者各位

当社(社長:一色 誠一)は1月11日(金)、ザ・プリンス パークタワー東京(東京都港区)にて、特約店や関係協力会社の方々、約1,000名をお招きして、2013年新年賀詞交歓会を開催いたしました。

当社会長 木村 康の挨拶(要旨)を以下のとおり、お知らせいたします。

2013年度から始まる第2次中期経営計画(2015年度までの3カ年計画)は、当社の未来に向けての羅針盤と位置付けております。本日は、第2次中計の大きな柱となる、当社にしか実現できない「新たな付加価値」や「高い利便性」をお客様や特約店、サービスステーション(SS)の皆様を提供するためのリテール戦略の方向性について、5点ご紹介します。

1点目は、Dr. Driveのリニューアルです。お客様のニーズを掴んだENEOSならではの付加価値を提供することで、お客様に支持される高収益SSづくりを推進します。新しいロゴデザイン、快適なサービスルーム(ValueStyle)等により、従来の「技術力」に「お客様からの信頼性」と「快適性」をプラスし、お客様が気軽にカーメンテナンスについて相談できるSSを実現します。

また、新たな事業として軽板金について、技術者育成から販売促進、データ管理まで全てをパッケージ化してご提供できる仕組みを「DDリペア」として開発中です。各種研修についても新たに開発し、ご提供していきます。

2点目はカード戦略です。「ENEOS Tカード」は、大変、利便性の高い現金会員カードとなっています。一方、「ENEOS Sカード」は、420万人の会員を有する業界最強のクレジットカードとなりましたが、更なる優位性の確保に向け、Tポイント機能を搭載するなどを検討しています。これが実現すれば、「ENEOS Tカード」会員のお客様に、スムーズにクレジットへ切り替えさせていただくことが可能となります。

3点目はシステム戦略です。スケールメリットを活かした、ローコストで機能的な新POSの導入を2014年7月に開始します。スマートフォン等を用いた「ワンタッチ給油」による他社を凌ぐお客様への利便性提供や、お客様の購買動向に応じたクーポン販促などを実現していきます。

更に、統合前の旧両社のリテールシステムを統合することで、シナジー効果、ランニングコストの最小化を実現し、業界最強のシステムを構築します。

4点目は、現在、全国約700カ所で展開している震災時給油可能SSの機能強化です。万一の災害時において、地域の復旧に貢献することで、ENEOSブランドを強化して参ります。これから3年間、100ヶ所程度で、発電能力の強化、水害多発地区における計量機の防水性の強化等を実施していく予定です。

5点目は、水素ステーションの開発・展開の推進です。本年3月、日本初となる「SS併設型水素ステーション」を2カ所でオープン予定ですが、今後も、2015年にかけて40ヶ所程度の建設を検討し、将来に亘り、ENEOSがエネルギー供給の主要な担い手としてあり続けるよう取り組みます。

当社は、これらのリテールサポート策を中心に特約店・SSの皆様を全力でバックアップしてまいります。いかなる市場環境においても「勝ち残るSS経営」に向かい、一緒に取り組んでまいりましょう。

SSという小売業態がしっかり生き続けているのは、「エネルギー」という商品を取り扱っており、地域社会の大切な生活インフラだからであり、これがSSの強みです。また、当然ながら、厳しい経営環境の下で、確かな接客力・技術力を持ち、環境変化に応じた経営効率化を進められた皆さまだからこそ勝ち残っているのであり、経営基盤を更に強くして、地域社会にとって一番頼りになるエネルギーの拠り所、要となることを期待しております。地域と密着し、お客様との信頼関係を強固なものにして、「エネルギーの安定供給」という社会的使命を、将来にわたって担い続けてもらいたいと強く思っております。

最後に、2013年にかかる思いを2つ述べさせていただきます。

1つ目は、「安定需要・安定供給・安定収益」の3つの安定です。「安定需要」があって初めて、それに対する「安定供給」を支えるサプライチェーンの維持と再投資可能な「安定利益」を実現していくことができます。この3つの安定が業界にとって重要であり、結果的には消費者の皆さまにとっても大切なことであると考えます。

石油連盟会長の立場としても、「石油の力。」というスローガンを通じて、消費者の皆さまに石油の優位性をアピールしつつ、石油の需要防衛につなげていきたいと考えます。

2つ目は、「石油業界の和」です。2つの意味を込めており、ひとつは、特約店の皆さまと当社が、それぞれの役割のもとお客様に安定供給を果たしながら、エネルギーの「みらい」を切り拓いていくという意味の「和」です。もうひとつは、業界人としての

「和」であり、お互いを尊重しながら、競争と協調を通じていくことで、業界全体を発展させようという意味の「和」です。

「和」の力こそ、10年、20年先も業界が継続していくための力になると信じています。日本のエネルギーの「みらい」のため、まずは我々が先頭に立って「和」を育くみ、業界の健全な発展をリードしてまいりましょう。

以上